



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.2

「情報」の「うそ」を見破ろう

覚えるだけでは意味がない

知識を活用できるかたちで身に付けよう

日本の真東にある国は、アメリカ合衆国か？

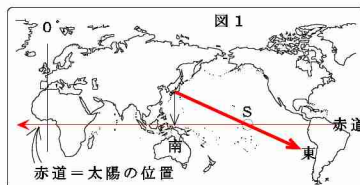


図1のような世界地図(メルカトル図法)が、一般的に利用されています。また、君たちは小学校で、地図の右方向が東だとも学んだと思います。ここまでの知識で、この地図をもとにして、あまり考えずに、日本の真東にある国

をさがせば、「アメリカ合衆国」が答えになるでしょう。

けれども、それは本当でしょうか？ もう一度考え直してみよう。

太陽は、どの方位(方角のこと)から昇ってくるのでしょうか？

小学校の理科で、春分の日や秋分の日には、太陽は、真東から昇ると学んだと思います。

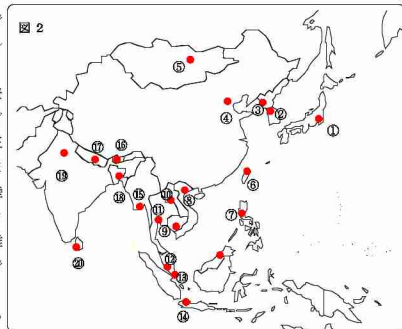
さらに、中学校になってから、社会科の授業で学んだことを思い出してみよう(中学校の理科では、2年生になってから学習するかな？)。

地球上での太陽の位置は、夏至の日には北回帰線上、冬至の日には南回帰線上にあります。春分の日と、秋分の日には、赤道線上にあります。ですから、日本で見る日の出のときの太陽は、赤道上の太陽を見ていることになります。それが、図1の「S」の位置の太陽(地図上の○印)です(その時刻は、午前6時)。

これで、日本の真東にある国が、アメリカ合衆国ではないことがわかりました。日本から真東に向かって線を引いた先にある国。それはどこの国でしょうか？それが地球儀を使って学習したときの「答え=チリ(アルゼンチンは、チリの東にある国)」です。

このように社会科学学習で大切なのは、「答え」だけではありません。それよりも、真東をさがし、それを考える方法のほうが大切です。そのような考え方をとることができる学力を、「社会的思考・判断」といいます。今回の例では、半分以上、理科的な思考・判断とも言えますが、「世界地図」だけでなく、多くの資料などが示す「情報」の「うそ」を発見するためには、他の教科で学習することもフルに活用できなければなりません。社会科はその意味で、「総合教科」と言っても言い過ぎではないでしょう。

Q1 さて、質問です。図1のようなメルカトル図法の地図は、面積も方位も正しく表現できません。けれども、大陸の形をほぼ正確に表すことができます。その一方で、大陸の形を正しく表現できなくても、方位と距離を正確に表すことができる地図があります。その図法を地図帳からさがしてください。



Q2 2つ目の質問。春分の日や、秋分の日、日の出の時の太陽の経線上の位置は、何経度にあるのでしょうか。

時差で考えたことが、考えるヒントになります。1時間で太陽は、何度回転するのでしょうか？これがヒントです。2つ目のヒントは、いつの季節でも、日本の正午は、図1の「南」の経線上に太陽がきた時だということです。それは何経度だったのでしょうか。

Q3 図2のアジアの国々の国名と首都名を調べておきましょう。